

※佐藤注：今回は文章が異様に長い。まあいつもこの「筆者」の文章は長いので削ってもらっているのだが、今回は削らない方が面白そうなのでほぼそのまま載せている。字が小さくてすみません。下山田ワールドをご堪能あれ。

みなさま一目惚れしてしまったことあるだろうか？もう筆者は何度も何度もしている。ある時はカマキリ、ある時はメカジキ、ある時はヘビ、ある時はイナバヒタキ（鳥。日本ではほぼ見られないので諦めた）ともう惚れまくりである。ただ、今まで惚れた状態が保たれているのはルリハタ（魚。もう美しいのだ。特に、幼魚→成魚の色の変わり方がイイ！大好きなのだ）とハチ（特にセイボウとジガバチモドキ）くらいである（人？したことないわけでは無いぞ）。ちなみにルリハタは片思い7年、ハチは片思い6年である（一部叶ったものもいるけれど）。

今回はセイボウについてご紹介しよう（つまとところ推し活と言うものだ）。筆者の最初の出会いは忘れもしない小学2年の学童の帰り道。その頃筆者はエメラルドに狂っていた。なので、光る緑のものが自然と目に入ってくるようになっていた。そんなわけで、道端に転がっていた緑のソレを手を取った。そうするとハチではないか！筆者はその当時今では考えられないほどハチにビビっていた（学校でスズメバチにこっぴどく追いかかれたのだ。今では追いかける側なのだけれど…）。しかも尻から何か出てくるのではない。もうパニックになって緑のソレを投げ捨て、一目散に家へ逃げ帰った。とはいえその時も筆者は虫が大好きだったので緑のソレが何か気になった。んで困ったらやはり小学館の図鑑である。ペラペラめくっていくとミドリセイボウなるものが出てきた。その当時は、ほえーくらいにしか思っていなかった（今思うとあれはイラガセイボウだし、もっと悔しがらなきゃなんだ）。そんでしばらく飛んで小学6年生の授業中へ。あるうことか、窓に止まっていたハチを捕まえた。まあ当然刺された。だが想像の何倍も痛くなかったのだ。じゃあもうビビる必要はないか！というのが筆者の考えだった。それからもう、ハチは捕獲対象である。中学に上がると学校裏のヤブガラシに昼休みや放課後になるとハチ好きの2人の変人（修学旅行でやらかして以来先生にも呆れられていた気がする）がジップロック片手にハチをせっせと集めていた（今思うと、キゴジガバチみたいなどんでもないやつまで居て素晴らしい場所であった）。そんな時学校の図書館に田中義弘さんの「狩蜂図鑑」を入れてもらい、そこに載っていたムツバセイボウにまたも一目惚れ。即座にもう1人のハチ野郎の元へ駆け込んだ。そこからはひたすらセイボウについて調べまくり（その努力を勉強に回して欲しいものだ）、その友人とセイボウ交換条約なるものまで結んだ。まあそんなセイボウに狂った毎日を過ごし、お互い高校へ進学。入学祝いに買ってもらったカメラで家の下のヒメジョオンを練習がてら撮っていた。そうしていると何かついている花を見つけた（3Fからである。いやあ我ながら凄目であるなあ）。写真を撮ると緑のハチ。そうセイボウである（種類はハラアカマルセイボウ）。もう滅茶苦茶に慌てて外へ飛び出し捕獲。その場で叫んだのはいい思い出である。んでそのまま高校2年になると近くの公園では物足りず（大体知り尽くしたのだ）、他の公園や千葉へしょっちゅう出かけた。そうして今のこのハチ馬鹿の完成である。

長いこと自分語りしてしまったのでセイボウについて説明していこう。このハチは他のハチへ寄生するいわゆる寄生蜂である。主に寄主が巣を離れた際に巣へ侵入し、産卵を行う。また一部の種は二次寄生（簡単に言うと寄生に寄生しているものに寄生すること）という形態をとる種もいる（例えばアブラムシに寄生したハチに寄生する。とかである）。また、外部から攻撃を受けると体を丸めて防御姿勢をとる。外骨格は非常に硬いが腹側は柔らかいため身を守るにはその姿勢が最適なのだ。生息場所だが、ある程度寄主が密集して営巣しているところであれば割と見つかる。よく見ているとこのセイボウ、実は寄生する巣を選んでるように見えるのだ。母バチが泥を啜えているものと幼虫のエサを啜えているものを見極めている（気がする）。そしてエサを啜えているハチが巣へ入るとその近くへ行き待機、出ていくと即座に侵入。さながら強盗のようである。しかも面白いことに寄主とセイボウが鉢合わせしても、寄主がセイボウに気づくことがあまりない気がするのだ。実はこの派手な体の方が寄主に認識されにくかったりするのだろうか？あと化粧行動（つまりは体の手入れ）を頻繁に行う。これはハチが緊張している時に気持ちを落ち着かせるために行うのだ。バレにくいのかは定かでないが、やはり相当緊張するらしい。セイボウの生態についてどうにか解明してみたいものだ（されているかもしれん）。

さて、どうだろうか？筆者はまだまだ話足りないが今回はこの辺で終わりにしよう。あと最後に。嬉しいことにこの前書きたいいきものの記を早速読んでくださったF先生から1ヶ月1回投稿ではなく2回くらい投稿したら？との提案があった。昨年サボっ……スランプに陥ったが、今年は全然書けるので不定期更新1ヶ月2回投稿になる予定だ。今後ともいきものの記をよろしくお願いします。（文・写真：下山田樹）

セイボウ（青蜂）

寄生の様子



サイジョウハムシドロバチ（寄主）が巣を作っている横で、ナミハセイボウ（左の青緑のハチ）が寄生しようと待機している。矢印がドロバチの巣の位置。



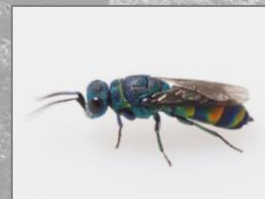
ドロバチが去ったのを見計らってセイボウが巣に近づいた。



ドロバチの巣を物色中。巣の中に卵を産み付け、孵化した幼虫はドロバチの幼虫を食べて成長する。



青緑色に輝くナミハセイボウ。セイボウの仲間は種類によっては赤や黄緑色が混ざる。非常に美しいハチだ。他のハチへ寄生する寄生蜂である。この個体は後ろ脚で翅の手入れ（化粧行動）をしている。



ムツバセイボウ



ツマムラサキセイボウ



ミドリセイボウ



オオセイボウ



ハラアカマルセイボウ



セイボウの防御姿勢